

令和8年度「知事と市町長との円卓対話」（玉城町） 概要

- 1 対話市町 玉城町（玉城町長 ^{なかがわ やすなり} 中川 泰成）
- 2 対話日時 令和8年8月30日（日）15時20分から16時00分
- 3 対話場所 アスパia玉城 ふれあいの館（玉城町原 4266）
- 4 視察場所 アスパia玉城 ふるさと味工房アグリ（玉城町原 4254-1）
- 5 対話項目
 - （1）命を守る災害に強いまちづくりについて
 - （2）未来につながる交通まちづくりについて
 - 地域の可能性を広げる新たな挑戦について

6 対話概要

対話項目（1）命を守る災害に強いまちづくりについて

（町長）

それでは対話項目1ということでございますけれども、まず私が就任以来、命を守る災害に強いまちづくり、これを掲げまして、これまで以上に、防災減災対策に重点を置いて、これまで取組を進めているところでございます。当町の防災減災対策の取組の現状と特に課題となっております治水対策について、ご説明をまずさせていただきながら、意見交換をお願いしたいと思っております。

まず地域防災力の強化についてです。災害から住民の命を守るためには、これはもちろん共助の力が不可欠なものであります。そのために、玉城町の防災ボランティアの皆さんのご協力をいただきながら、未来の担い手である小中学生を対象とした防災体験、それから講話、これを積極的に実施いたしまして、若いうちから防災意識を育むということに着手をしております。おかげをもちまして、この玉城の防災ボランティアさん、令和5年度に、三重県の防災大賞を受賞させていただきまして非常に励みに、熱心に活動いただいているところでございます。

また避難所運営訓練におきまして、令和7年から地域住民が主体となって実施する方法に変更いたしまして、より実践的な運営体制をめざして試行錯誤をしているところでございます。令和8年も10月にそれを実施しようということで、今、取組、準備を進めているところでございます。

そして令和6年度には、能登半島地震の教訓からトイレトラックを導入させていただきました。また災害派遣ネットワークにも参加をいたしまして、準備

を整えているところでございます。日常は、イベントにトラックを派遣して宣伝したりとか、水辺の学校においてご利用いただくとか、そういった使用をしておりますけれども、現在は熊本地震の応援で派遣できるように、待機をしているところでございます。

加えて、玉城町は、津波被害が見込まれにくいということがありますので、その中心は住まいの安全確保ということになります。これが最重要ということでございます。住宅の耐震化、それから大規模な改修が難しい世帯に向けては、耐震シェルターであったりとか感震ブレーカーの導入を推進しているところでございます。具体的には、推進員というのを立てまして、1軒1軒にご案内をしに行くということをしておりまして、そういった啓発活動や、民生委員を通じたお年寄り世帯への周知を図っているところでございます。

令和8年度、三重県におきましては、除却の補助について倍増していただきましたし、耐震診断については、令和7年より2倍のペースで今お申し込みいただいているというところですので、そういった取組もしっかりとPRをしながら、補助制度もご活用させていただいております。本当にありがとうございます。

ここからがハード面のお話になるわけですが、今私どもが重点的に取り組んでおりますのが、外城田川の治水対策ということになります。その背景につきましては、平成29年の台風21号による甚大な被害があります。当時私も職員でありましたが、外城田川の氾濫浸水によって、床上床下合わせまして500件を超えるような、被害が出たところであります。これをふまえて、令和元年度に策定をした、「準用河川外城田川の治水整備計画」に基づいて、河道掘削、護岸確保などを実施して参りました。これまで今年度を含めますと、約9億円程度の予算を投じまして、今整備を進めているところでございます。

そこで、1点目となります。外城田川においては、上流から多気町、玉城町、伊勢市、三重県という上流から下流に向かって、県管理区間と市町管理区間が連続する川でございます。こういった河川でありますことから、県と市町がより一層連携をして整備をする必要がございます。引き続き、流域全体の安全度向上に向け、今後の支援や協力体制について、より強力的にご支援をお願いしたいというものでございます。

そして2つ目でございます。令和8年の6月の補正で、少し遅ればせになりますが、マンホールトイレの整備に着手をしようということで、設計予算をお認めいただいたところでございます。避難者の生活環境を向上させる、こういう目的から、スフィア基準に沿った避難所の整備を進めて参ります。マンホー

ルトイレのさまざまな整備に対する県のご支援をお願いしたいということを申し上げたいというふうに思います。

私からこの2点をお願いをさせていただきまして、意見交換に進めさせていただけたらと思います。以上でございます。

(知事)

防災対策は行政が1番やらないといけないところではありますが、残念ながら三重県は防災対策が弱いです。何故かという、大きな災害にあっていないからです。大地震とか大豪雨にあっていないのは三重県と愛知県ぐらいです。三重県も、私が生まれる前ですけれど昭和34年、伊勢湾台風が来まして、特に北勢の海側を中心に大きな被害を出しましたが、その時のことを覚えている人はもう大分減ってきました。そのあと、東日本大震災もありましたし、阪神淡路の大震災もあって、それから熊本の地震もありました。最近では能登半島の地震もありました。人間は災害を経験しないと何をやっていいのかわからない。今回熊本は、実はその10年前の熊本の地震に比べると大分対策が前に進んでいます。それは10年前に厳しい地震を経験して、対策を考えてきたからです。

三重県は、大きな災害にあっていない。生きておられる方、あまり経験されていないと思います。昭和19年には大きな地震があつて津波が来たということですが、そのことを覚えておられる方は非常に少ない。こういうことでありまして、とにかく、災害対策は経験がすべてということで、三重県に私が来てから、北海道の奥尻というところがあります。これは平成5年に大津波が襲いまして、最高の高さ30メートルです。実は、南海トラフ地震が来ますと、三重県でも30メートルぐらいの津波が来ます。玉城町は大丈夫です。だけど大揺れが来ますので、揺れで亡くなる方、倒壊する住宅が出てくると思います。

そのために、令和6年から、三重県では耐震補強に力を入れまして、町でやられる耐震補強の補助率を、県としても補助をするという形にしていますし、それから令和7年から、避難所をはじめとした、施設整備をされる町に、県が2分の1補助をするという制度も作りました。

災害で一番大事なのは、平時からの備えです。事前防災をしておくというのが何より大事だというのは、この間の熊本地震のときも、その前の能登半島地震のときも経験で学んでいます。能登半島のときは三重県全体から大体延べで18,000人ぐらいの人、能登に支援に行ってもらいました。これは、県庁職員の人もそうなんですけれど、とにかく行って見てこないと、どんなに大変な

ことになるかわかりませんので、行ってもらっているということです。今回の熊本地震でも 100 人を超える人に三重県から行ってもらっていますけれど、今町長からお話しいただいたように、トイレトラックの準備をさせていただいている。これはありがたいことです。次、どこかで地震があったら出していただきたい。

トイレトラックの話をする、玉城町はすごく頑張っておられます。県は前からお願いしてたんですけど、ようやくトイレトラックを作るようですので、そのうちできると思います。

とにかく災害が来たときに大変なのは食料もそうですし、避難所もそうなんですけれど、避難所は関連死がないように、これからしっかりとしていけないといけないですけど、トイレが一番大変なんです。

三重県は大きな災害にあっていないから、トイレをどう整備したらいいのかわからない。マンホールトイレがあるので、それを整備したほうがいいということで、県庁は令和 6 年に整備しました。ただこのマンホールトイレは県庁の横にあるんですけど、貯留式といって貯める形なんです。そうするとバキュームカーがいつも来てくれるかどうかかわからないというので、ついこの間、ようやく県庁でも流下式という、下水に直接便を流す、マンホールトイレができました。県庁の人は、今までは、マンホールトイレは附属中学校まで走らないといけなかったんですけど、県庁の横の公園にマンホールトイレができましたので、知事になって、ようやく 1 つのよいことをしたかなと思いますのは、それなんですけど、県民のために仕事をしながら、トイレは我慢しなくてもいいというようになっています。ぜひ玉城町でマンホールトイレを造られるときは、流下式を造られるようにお勧めをいたします。

外城田川の河川整備です。防災対策は道路も大事ですし、それから河川も大事で砂防も大事ですけども、2017 年の台風 21 号で、玉城は災害にあうことが少ない町ではあると思いますけど、床上浸水が 280 戸を超える、そして床下も 260 戸を超える浸水があるということで、どこで線状降水帯が出てもおかしくない時代になりました。この間は千葉で多くの方が亡くなりましたし、それからそのあと石川、富山で大雨が降りました。今朝は福井ということで、千葉は大変でした。ああいうことがないように、これから千葉の教訓を生かして、何ができるかを考えないといけない。

大雨が降ってきたら、玉城の人は玉城の中なら運転は大丈夫だと思いますけれど、他のところで運転してる時はどこでアンダーパスがあるかわかりませんので、もう車は運転しないように。車に乗っていると千葉みたいに亡くなってしまうので、それは気をつけないといけないという教訓を生かして、これか

らどうするのかというのを考えていけないというふうに思っています。

外城田川の河川改修。まず今、町で一生懸命頑張ってもらっていて改修を進めていただいています。町長からお話しいただいたように、上流部と下流部と管理が違います。県は下流の方をやらしていただいているので、まず、河川改修、上部からやっていただいておりますので、玉城町の河川改修に関して、県としては、今までもやっていますが、技術的な支援も含めてやらせていただきたいと思いますと思っています。さらに、令和9年度、町がやっておられる工事の進捗にあわせて、整備方法を検討しまして、一部改修しているところがありますけれども、今後、改修をしっかりとやっていきたいというふうに思っているところです。

それから避難所は最初マンホールトイレの話をしましたけど、避難所整備は、今力を入れています。南海トラフ地震もすごい地震がきますので、それに対して今条例をつくろうと思っています。県民の命を守ることが一番大事なので、南海トラフ地震に特化した条例をつくりますし、その条例を受けた計画もつくっていかうと思っています。ただ住民の命を直接守っていただくのは町の方、市の方ですので、避難所をどうやって作っていくのか。これが一番大事です。せっかく地震で、直撃を免れて命は長らえても、避難所で命をなくすというのが能登半島、東日本もそうでした。

今実は、世界的な基準というのは避難所で1人当たり3.5平米がいると言われてるんですけど、三重県の中で、それを達成しているのはわずか5%しかない。これをこれから増やしていかなければならないので、先ほど申し上げました事前防災の一環として、避難所の整備を、何としても頑張っていきたいと思っています。

(町長)

知事ありがとうございました。大変前向きなお話をいただけたものというふうに理解をしています。

外城田川に関しましては令和9年度から、県管理区間の整備方法を改めてご検討いただけるということでございますので、本当に感謝申し上げます。また治水工事に関してもご指導いただけるというような言葉も頂戴いたしました。平成29年の台風21号の災害の件で町民の皆さんから、1日も早く安心できる川にして欲しいというような切実な願いが寄せられているのも事実でございます。町といたしましても、知事のお言葉を大きな励みといたしまして、町が実施をする治水工事を着実に進めて参りたいというふうに思っております。引き

続き、三重県と玉城町が一体となって、外城田川の治水整備を強力に進めて参りたいと思いますので、格別のご指導をお願い申し上げます。

またマンホールトイレにつきましても、大変力強いご回答をいただきました。形式についてはこれからしっかりと検討いたしまして、私どもの土地柄・施設柄に合うような形式を選んでいきたいというふうに思っております。誰もが安心して安全に使用できるトイレ、スフィア基準で対応できるように私どもも進めて参りたいというふうに思っておりますので、是非ともよろしく願いをいたします。

対話項目（２）未来につながる交通まちづくりについて 地域の可能性を広げる新たな挑戦について

（町長）

２題目ということでよろしくお願いをいたします。交通政策全般ということもございますので、まちづくり全体という意味で、少しお話をお伺いできればなというふうに思っております。

まず田丸駅という、私ども玉城町に唯一の駅ということで新しく田丸駅交流施設ということで、一昨年、令和６年４月にオープンをさせていただきました。これは、田丸駅交流施設ということで国の地方創生の交付金を活用いたしまして、整備をさせていただいたものでございます。当然、駅は鉄道事業者さんが整備をしますので、私どもは田丸駅交流施設というような立て付けで整備をさせていただいたものでございます。今現在こちらの利用については、玉城町の観光協会さんが全力で頑張ってくれていまして、日本酒やワイン、地元の醤油講座とか、紙切り昆虫展とか、さまざまな世代が交流をする施設ということで活用が進んでいるところでございます。また駅舎の完成にあわせまして観光協会さんが入居いただきましたので、有人化したということもあって非常に安定をいたしまして、現在はそのスタッフさんが、来訪者へのおもてなしも含めて、対応しているところでございます。田丸駅については、人を運ぶというよりは人と地域をつなぐような、こんな施設に生まれ変わり始めているところでございます。

一方で、いくつかの課題もあり、その１つが、この裏側といいますか、これ北側に向いてるんですが、南改札口の設置でございます。現在北側にしかないものですから、駅の南北で交通アクセスに大きな差があるという現状がございます。

駅周辺の利便性を高めていくことにつきましては、私どもも避けては通れない課題だという認識をしております。現在、「立地適正化計画」という計画

も、策定を進めておりますけれども、田丸駅を中心として、この駅が点ではなくて面に広がっていくような、そんな整備が重要というふうに私も思っているところでございます。

田丸駅周辺には、国指定史跡の田丸城。あと、それから熊野古道の出立の地、そして玄甲舎といった、歴史資源、地域資源もたくさんある場所でございますので、是非ともこれらをつないで、この関係人口の拠点というようなものもめざしていきたいなというふうに思っているところでございます。

もちろんですねまた、この2033年にご遷宮も控えておるところでありますので、私ども玉城町は伊勢神宮ゆかりの地であるということもありますので、ぜひこういった機会をとらえて、皆さんが楽しんでいただくような、そんな仕組みをめざしていきたいというふうに考えております。

まずは、この町民の皆さん、周辺の皆さんのご理解をいただくということが極めて大切であると思っておりますので、皆さん一緒になって、将来の田丸駅をどうしていくのかというビジョンであったり、コンセプトを共有した上で、できることから着実に進めていきたいというふうに考えております。こういった状況が町周辺部であります。

そこでなんですけれども、この南改札口をはじめとする田丸駅周辺の基盤整備であったり、歴史的景観に配慮した修景整備に関して、財政的、そして技術的な支援も引き続きお願いしたいということでございます。

つきましては、もう1つありまして、関係各所との円滑な合意形成を図るため、協議へのご参画、それから技術的助言、関係機関との調整に向けたバックアップをいただきたいということでございます。私ども、公共交通会議の設置をするという予算を6月にお認めをいただいておりますので、いよいよこれを本格的に設置をしていくという時期にございます。そういった中でまだまだ初めてということもございますので、そういったこの初動期のときに、強力的にご支援をいただきたいということで、2つ目の題目ということでお話をさせていただきました。以上でございます。

(知事)

公共交通について普段自分で運転していると、必要だと思わないですけど、学生のとときとか、それからご高齢になられて、免許を返納するかしないかとか考えてみますと、すごく大事なものです。

三重県は年に1回1万人アンケートというのをやっています。県民の皆さんに我々行政が、お伺いしたいことを聞いているアンケートなんですけど、令和5年に、そこで聞きました。三重県のご不満は何があるかということで、一番不

満が多かったのは交通です。

実は三重県は南北に長い県なんですけど、海側をＪＲとそれからＪＲは海側というわけじゃないですけど内陸もちょっと走っていますけど、近鉄が走っていて、亀山も玉城もそうですけどＪＲしかないんですけど割と便利な県なんです。私も交通政策を国でやっていましたので、交通行政はある程度知っているつもりなんですけれど、三重県は割と便利な県です。

しかし、東西の交通があんまりない。一部ＪＲが走っていますが、これは公共交通でいうとバスに頼るしかない。そういう意味では、東西の交通もしっかりしていかなければいけない。

それから、大事なのは駅からどうやって公共交通で家の近くまで、いけるようにするかということを考えていかないと、免許の返納はどこでできるのかという話になります。本当にそんな県でいいのかという思いも日々、実感としては持ってるんですけど、そのためには、バスの路線を張りめぐらす。もう 20 年以上前ですけど、コミュニティバスが流行ったときがありました。でも、コミュニティバスにしてもできないというのが、各自治体の今の実情だと思います。じゃあどうするかというと、もうボランティア輸送。例えば車両は、町が買います。県が 2 分の 1 補助します。その運転手はというと、退職をされた 70 代の方に運転してもらえます。場合によっては、町の職員が運転することも、時間によってはあります。もっと言うと、例えば郵便局の人に助けていただいて運転をしてもらうようになると、こういう公共ライドシェアという形で、ボランティア輸送、助け合い輸送をするしかないというのが今、日本各地の現状であります。

それで先ほど町長からお話しいただきましたけれども、その会議をやらうということになっております。中部運輸局が名古屋にあるんですけど、そこが支援をしてくれると、協力してくれるということでありまして、私が知事になりましてから県庁の中に交通部門を作りました。地域連携と交通をやる部がありまして、そこで、地域の交通計画をしっかり作るのをサポートするということでやらせていただいています。まずは計画をしっかりつくってもらうのが大事です。ちなみに三重県の中で今 29 の市町があります。その中の 13 が、先ほど申し上げました公共ライドシェアという、バスもない、タクシーもない、自家用車が運転できない人に対して交通を提供する、公共部門が提供するという部分もある。それを 13 の市町でやっていただいています。玉城町は、今これからどういう形をやるのか。後でやっていただくところは、実はいい所もあるんです。先行してやられたところの、課題を解決する形で作っていきますので。ですから、住民の皆さんのご意見もお伺いしていただきながら、それから、1

番いい交通の提供の仕方はどういうふうにするのかというのを、やっていただくのが大事なかなと思います。

もう1つ、田丸駅ですね。有人化されたのは非常にいいことだと思います。駅は町の顔ですので、そこを明るいい形に多くの人が集まる形にさせていただいたのはとてもいいことだと思います。

国土交通省では、立地適正化の話もありますし、それから歴史まちづくりという補助金もあります。そういったものも活用させていただいて、駅の周辺も都市計画を作らなければいけないけれども、にぎわいが出るようにやっていただくというのも1つ大事な事かなと思ってます。

それから今、田丸駅は南側に入口がないということで、そこはＪＲにお願いしていかないといけない。なかなかＪＲ東海、お話を聞いていただけるかどうか難しいところもあると思いますけれども、有人化したということで、ＪＲにとってもプラスの方向であると思いますので、それを使いながら、ＪＲとお話をして、改札を作っていただく。それで改札がありましたら、跨線橋で北側にも行けると思います。歩いていただく人には、歩きやすいとか、にぎわいのある駅になってくると思います。あとは踏切をどうするかという、踏切作るのなかなかこれＪＲ大変だと思いますので、車は多少回ってもいいと思いますが、駅を中心にまちづくりをやっていくという発想自体非常にいいことだと思います。

先ほど、遷宮のお話がありました。この玉城町は、熊野古道の出発の地でもあります。そういった点で、観光客の誘致も大事なんですけれども、歴史がある町だということを、どんどんＰＲをしていただくということで、にぎわいもそういった意味でのにぎわいも、確保していただければなというふうに思っております。

(町長)

田丸駅に関しましては、ＩＣカードが、令和９年度ぐらいまでにできるということもあって、そういうきっかけもあるので、ぜひいい機会だと、整備した甲斐もあったと言って、みんなで話をしております。当然、駅の南側に住まれている方もありますので、そういった方々のお話も丁寧に聞いていかないといけないなというふうに思いますので、一朝一夕には進まないというのは理解をしておりますし、もちろんＪＲのご協力がないと、とても進める話ではないので、先般もＪＲ東海の部長にお会いしていただきまして、少し懇談をさせていただいて、あながち門前払いではないというような、今お話で進めさせてもらっておりますので、これをどう加速して、盛り上げて実行に向けていくんだと

いうところが、少し、これから本当に本腰を入れないといけないなと思いますので、何かそんなアドバイスがあればお願いしたいなと思うのと、それから先ほどの交通政策について、私ども元気バスというものが走っていきまして、要は公共ライドシェアの奔りの乗り物だという、今思うとそういうようなものなんです。今、もちろん白ナンバーで走っておりますけれども、これを新しい形に。課題は、隣の町へ行きづらいというところがあって、お隣の病院に行くときにどこかで乗り継がしてもらってから今行っておるというようなところもありますので、より便利に、より効率的に、どのようにこの体制を組んでいくのかというのは非常に課題だなと思っておりますけれども、今本当に元気バスが頑張ってくれておりますので、もう少しこの猶予がある時間に、しっかりと次の時代の交通対策について考えていきたいというふうに思っております。本当に力強いお言葉ありがとうございます。

(知事)

別に住んでいる人は、県とか市とか町は関係ないですよ。だから病院は隣の町にある隣の市にあるというのはよくあります。亀山もそうです。亀山に大きな病院がないので鈴鹿まで行くんです。公共交通は何で亀山で止まっているのかという声をよく聞きます。実は菰野の方からもその話がありますし、玉城もそうだと思います。町で何で交通が終わらないといけないのかと。隣のところまで行けるように、これは、国の制度もあるんですけれども、それを国に働きかけたらいいので、それをしっかりこれからやっていかなければいけないところです。これ最大の課題だと思っています。ですから今おっしゃったバスは、おそらくコミュニティバスで作られたものじゃないかなとは思ってはいるんですけど、それをどこまでも、どこまでもはなかなか難しいんですけど、なるべく走っていただけるように考えていくというのが1つの課題。

だから、これから、おそらく町も市もですけど、人口これだけ減ってくると今の形で維持できるかというとなんなこともない。20年30年になったら県もそうです。県が今のままで維持できるかどうか分かりません。国は自由に行き来できませんけど、県は自由に行き来できますので、交通もそういうことだと思っています。

それから、JRとの関係はなかなか、彼らに支出を求めることになりますので、丁寧な対応が必要です。私が知事になってから、毎年2回社長さんとお話しする機会もあります。これからは懇親もしながら、お話をしていこうということでJRの中で東海さんはちょっと、いろんなお考えをお持ちになっているところではあるので、なかなかお話するのが難しいところもあるんですけれ

ど、玉城町はもうお話しされているということですから、これからも親交を深めて、おそらく、踏切を作るのは大変ですけど、改札を作るのはそんなに大変なことではないと思います。どれだけ地元で負担できるかということがポイントになってくると思いますので、そのあたりをしっかりと話ししながら、進めていけばできると思っています。

また県もご協力をさせていただきますので、よろしくお願いします。